

磐城春秋

第三號

發行所 磐城市平田町五番地
電話 八六二五
編輯 高木稲水
印刷 平活所

【定価一圓四十錢】

予言者出でよ

「予言者はその郷土に入られぬ」とは洋の東西を問はず之を古今の歴史に徴するもその真なることを我等は知るのである。

何故に然るか。東京のやうな大都會と違つて磐城地方のやうな田舎では大抵の人間はその戸籍は勿論、その生ひ立ち現在のお台所の隅の隅に到る迄それこそ隅なく知られてゐる。もし少し有名にでもなつたら昨晩子供を大聲で叱つた事迄町の話題になる。實に微に入り細を穿つてその私生活迄問題にされ勝ちである。偉大なる予言者(指導者)は常に神祕のペールを必要とする。然るに田舎ではそれを續ふによしなく、御神体がまるだしになつてしまふのである。文も言もその

人間といふ裏附があつて民衆の指導力が生ずるのである。来るべき總選挙には有名無名の立候補者があるだらう。従來の指導陣營の崩壊に依つて新人が政治のみならず教育界、官界その他にも出てくるであらう。この新しい指導者をいかなる態度で迎へるべきであらうか。何もかも知り盡くしてゐるがため些少のその人物の疵を深し出して、神の教を説くキリストに向つて「あいつの親父は舟大工ぢやないか、舟大工の伴がなんだ」と罵つたキリストの近所の人達のやうな態度をこつては絶対にならない。キリストを聖人たらしめたのはペテロ以下の十二使徒であり、孔子を偉大ならしめ

たのは孔門の十哲と稱せられる十人の弟子達であつたのである。磐城地方の人士は特に狭量で郷土出身の名士に難癖をつけてその人を支援してゆくといふ雅量に乏しいと聞いてゐる。要はその人の人格であり、その人の將來性である。私利私利の爲に、その人の長所を短く、短所を長く、その人の人格を毀つて、その人の將來性を潰す。これは、先づ法規(考へ法規がなければ前例は思案する)これが官僚の頭である。(朝日 天聲人語 十日)

貝殻の追放

△「自由よ!汝の名に於ていかに多くの罪惡の行はれたることよ!」
「フランス革命の折血騒いだ頭台に上つたローランド夫人ばかう叫んだ。現代の日本でも民主主義の自由主義の名に於ていかに罪惡が行はれてゐるか。あらゆる間名に於て行はれてゐる。△與へられた自由がいかなるものであるにせよ、これを正しい姿で受け入れる権利がある筈だ。△或人曰く「かういふ世の中になつてくるとさういふ心臓の強い奴が結局生き残ることになる。△世の中はさういふ道義性の毛程もない國民性を有すといふ定義を下されることになる。」△世の中はさういふ状態がさう長く續く筈はない。平常の世の中になつた時、明るい町の中を顔を赤らめずに歩ける人が何人あるだらう。その時に後進しても間に合はない。耳ある者は聞き、△お役所といふ所は一般に感が好くない。もしその役所に顔見知りでもなからうものならそれこそ不要相に似たり。△お役所といふ所は一般に感が好くない。もしその役所に顔見知りでもなからうものならそれこそ不要相に似たり。△お役所といふ所は一般に感が好くない。もしその役所に顔見知りでもなからうものならそれこそ不要相に似たり。

切抜帳

○情報局が贈りて編んだ愛國百人一首はついに實用化されずしまひである。いまごろをかしくて並べられないのみでなく戦時中重何か理窟が勝ち上からの指令が重苦しくたのしい風持で正月の宵のひとときを費やすには適しなかつた。(讀賣、點晴)

○神國、八紘一宇、日本至上主義の驕慢なる民族觀から急轉直下して日本民族を劣等視し蔑視する自朝自虐の風潮が急激に瀾漫しつゝありはしないか。日本民族なんてロクな民族ぢやない。米もなく國民を飢ゑさせて何の國體維持ぞ獨立國として飢ゑんより、寧ろ星條旗の星を一つふやして賣つて米國の屬國になつた方が幸福だといつた卑屈な考が知らずくの中に國民の頭に浸潤しつゝあるのではなからうか。もしかくの如き風潮が支配的となるとしたら民主主義日本の再建などは到底覺えないことである。(朝日社説)

○官公吏を初め指導層が依然として悪業の甘い汁を捨てかれ、公然國民への配給品を中間で窃取し宛も當然の特權の如く無良心に自分ひさり酒を飲んだり意業をこつたりしてゐるのには眼がままるものがある。(河北社説)

何れも一月八日附

旬間録音

年末から年始にかけての大
きな當地方の問題は之を東
京各紙の報導振りを通して
見ると各炭礦に於ける労働
組合の結成が活潑になつて
來てゐることと農地調整法
による地主の土地處分問題
であらう。社會黨共產黨の
動きもまた大きく扱はれて
ゐる。

△労働組合の結成

○常磐炭礦労働組合
一日内郷町にて結成大會
を開催

○常磐山労働組合古河班
二日古河好間炭礦にて御
用組合粉砕の決議を行つ
た

○戸部日東炭三炭礦合同礦
夫組合
二日内郷町宮國民學校に
て結成大會

○矢郷炭礦労働組合

十二月末結成

△農地調整法と土地移動
改正農地調整法實施を前
に土地移動認可申請が縣
に殺到してゐるがこれに
依つて見ると平市諸橋久
太郎、渡邊村高木善枝、
泉村江尻博孝氏等の大地
主が土地を解放して自作
農設定に協方してゐる半

面小地主階級には親族縁
故分讓の名に於て土地所
有をはかつてゐる傾向が
ある。

△共產黨の立候補者
共產黨常磐炭礦指導者中
央執行委員春日正一氏は
衆議員候補者として同黨
から推薦を受けた。

△社會黨常磐支部の聲明
十二月三十日社會黨常磐
支部では第三回執行委員
會を開いて石城郡支部結
成は黨の擾亂と認むる旨
の聲明を發表した。

△常磐炭礦労働坑の火事
二日午後一時常磐炭礦勞
働坑の努力寮が火災に罹
り同寮二棟十六室を全燒
した損害十萬圓

市内解散團體

マツカーサー元帥の指令に
依り解散を命じられた廿七
愛國團體中平市に支部のあ
るのはやまとむすび社と東
亞聯盟の二團體でやまとむ
すびは水野隆介氏東亞聯盟
は永山勇吉氏が支部長で何
れも四五十名の會員があつ
た。

明るい郷土 建設のため

純真と正義に基づく若人の

熱と力を結集して正しく
明るい郷土を建設しよう
といふ平市内の青年が昨年十
一月頃から長橋町性源寺の
渡邊則雄師を中心に宗像利
定、渡邊辰治、根本善一郎
氏等十五名が寄り／＼協議
を重ねてきたが五日午後
一時から性源寺に準備委員
會を開いて會則原案及び事
業計畫等を決定した。會名
は磐城青年會(假稱)とし道
義の昂揚、有権者の啓蒙運
動等につき具体案を決定活
潑な運動を展開する。

文化の開拓者

毒會の催物

文化的向上と郷土的自覺と
を昂揚すべく學生層を中心
として新春を期して新發足
をなした毒會は一月一日長
橋町の性源寺に於ける決議
に基づき種々の實行案を具
体化、現在迄に左の如き座
談會及學生研究會を開催し
た。

◇座談會

一月三日午後六時より南町
大森勇會長宅にて開催、會
員凡そ三十名の他上田、實
川、内木の各醫師大嶺辨護
士廣木御殿國民學校訓導山
崎神戸經專教授石黒平工教

諭等の一輩有志の參集が
あり、最初に元海軍々醫中
佐織内平八氏から「アメリ
カの國民性」に就いて談話
があり、それを中心に民主
主義問題或は天皇制問題、
現下の學生問題等について
眞剣熱心な討議が行はれ十
時半散會した。

◇學生研究發表會

一月六日午後一時より常陽
銀行階上にて開催集會者二
十餘名、各大學のゼミナ
ル制度に鑑をとり會員各自
の研究題目に關して二十分
内外の報告をなし、活潑な
質疑應答の後午後六時半
終了した。

天皇存廢批判 石黒武雄
炭坑の現状 吉澤沖次郎
憲法に於ける國家概念の反省 青木宏安
線一特に東洋的美學の立場から
免案について 山崎常三郎
文化としての宗教 吉田利一
俳句一小考 龜山正邦
主義の解説 草野昌平
ヒイタギについて 遠藤好一
社會と個人 松崎・茂
化學療法の一般概念 龜山正邦
數學のパズル 柴田秀雄
愚庵の生涯 菅原道夫
白水阿彌陀堂の板木について 菊地康雄

なほ来る十三日、午後一時
よりマルトモホールに於て
レコードコンサートを開催

する豫定であるが政治方面
のみならず未開拓の分野に
對し働きかけ文化のバイオ
ニヤータラんとしてゐる。

復員者總數

平市民中事變中應召して戰
死した者は昨年十二月廿日
現在二百八十名、終戦後復
員したものは六百二十八名生
死不明は百七十五名であつ
て石城郡の復員者は昨年十
一月末六百九十名である。

◎貸本部開設

一、書籍の種類が廣汎なことが
特色です
二、會員組織ですが會員の御紹介
があれば誰方にも御貸致しま
す
三、書籍の散逸を防ぐため保證金
を御預りいたします
平市四丁目 電話二三四番
マルトモ書店貸本部

高 壓 線

古軍靴の行方

二三日來市役所へ古軍靴を
運び込んで居りますがまだ
運ばれなかつた古軍靴の聲
を聞きません、運搬中市會
議員の一部並びに吏員の一
部が勝手に分與した事實を
突きとめてをりますますがそ
の譯を吞込まして下さい。
場合によりその人名を發表
致します (一戦災者)

運輸事業は速かに解體せよ

國民生活の動脈ともいふべき運輸問題が硬化症を呈して食糧燃料等我々の日常生活を極度に及びやかしてゐるが、汽車輸送の問題は暫くおき貨物自動車、乗合自動車、荷馬車等の地方的に簡単に解決できる問題については早急に統制の枠をばづして解體さへすれば現在の五割は確實に輸送力が増加すると或業者は語つてゐる。

抑も地方小運送を現在の如き状態に落し入れたのは戦時中國策なる美名のもとに業者の反對を押し切つて迄各種の企業を整備合同した餘弊であつて輸送の如き國民の日常生活に重大な關係を持つものを特定の一人の意志だけで左右するといふ事は不都合を生ずる源である。

貨物自動車は平地區では昭和十六年第一次の地區單位の企業合同に依り平、湯本、四ツ倉、小名濱、勿來、植田、江名、豊間、泉の九會社に整備された。これは狭い同一地區に二つも三つもの迷つた系統の車が走るよりは確かに合理的な所もあり効果的でもあつた。然るに昭和十八年の第二次合同に依

り石城郡一圓が磐城貨物自動車株式會社となつて前記九會社が九營業所となるに及んでその弊害の面が露呈して來た。

同社は社長橋田定好氏、專務高岡友一氏常務矢吹周一氏といふ重役陣容で資本金百二十萬、株主六十五名、従業員二百五十名、車臺百八十三を擁する大會社の形に成つたが、その半面車臺を必要部面に移動するにも一々會議を要するといふことになり、貨物の輸送を依頼する場合には必ず配車係の手を通じなければならぬといふことになり、獨占事業となつたため態度が横暴となり、能率はお役所式緩慢となり、車臺の如き現在は五十臺位しか動いてゐないといはれ、會社の營業に對する非難は相當に強いのがある。國內の生産を高めるには運輸による素材と製品の交流が盛んでなければならぬ。運輸は國民生活に密接な關係がある運輸事業の獨占は食糧營團などでも運搬に手を焼いて居り燃料木炭の輸送に就いても昨年は或地は木炭の

滞貨で田植が出来なかつたといふ話もある位である。乗合自動車は昭和十七年五月十三日一圓の營業者が合同して常磐交通となつたのであるがこれもまた合同前五十臺近くあつた稼働車臺が現在に至つて二十臺位動いてゐる状態に殺人的混雜と不定期運轉に地方民に少なからぬ迷惑をかけてゐる現状である。既に會津合同では今月一日から解體して始業してゐるといふことであるが當地方でも一日も速かに解體して自由競争にすればその弊害の面も除去され配車能率もぐんと向上する事と期待されその實現を要望の聲が高まりつゝある。

國体護持の叫

青年思想研究會
中里博典君を創立準備委員長とする「青年思想研究會」は三日午後一時から磐城小路の石城産科婦科看護學校で創立第一回研究會を開催した。この會は廿一歳以下の若い人達を會員として「世界最高平和文化國家創建のため各種の思想を研究し之が實現運動に挺身する一事にその目的をおく思想研究團體である。會費約四十名何れも若い人達で、先づ中里君の開會の辭に始まり、菅野春男君が「若人に懇ふ」を題して特攻精神を高唱し

て應答に訴へ、次は箱崎廣秀君が「私の考ふる民主主義」を題して民主主義を解剖して批判を加へ、第三席に大嶺慶一君が「私の眼に映じたる社會主義」と題して社會主義の發生發達の經過を述べて團體維持に及んで熱辯を振ひ、殿として中里君が「天皇打倒論を反駁す」と題を掲げて登壇天皇制は飽く迄も自然であつて敬愛親愛の情を以て天皇と國民大衆とは直結されてゐる所以を日本歴史を説いて說明天皇制支持を強調した。ついで批判會に入り聽衆から講義者に對する活潑な意見が開陳され眞に若人の研究會らしい眞摯な熱意に溢れた會であつた。ただし研究會員諸君は謙虛な態度でもつと研究を重ね特に社會主義共產主義に對してはもつと勉強することが認められてゐる。

三和化學工業所

石城郡内郷町小島

株式會社ホシ薬舗

平市三丁目五
電話四二九番

星製薬株式會社

福島工場
平市五丁目二八
電話六六八番
三五三番

有限會社

星アンブル工業所

平市佃町
電話七二四番

福島縣指定自動車整備主要工場

磐城自動車工業株式會社

平市正月町
電話三七〇番
四九〇番

土木建築設計 大井建築設計事務所

大井 勇
平市仲間町六二

移轉假營業所

◎適應症

○腹のいたむ病氣○せきの出る病氣○どふきの詰まる病氣○頭のいたむ病氣○胸のいたむ病氣○からだのはれる病氣○其他急性慢性に病む方一度心見られよ
尙出張治療の相談に應ず

器壓療法 佐々治療所

平市新川町二七
(いそだま本舗裏)

◆訂正

安藤侯の銅像は平で原型を破壊して汽車で輸送したのて蓋があるといふのは恐らくはその破壊したものであらうといはれる。従つて前々号の記事の一部を訂正しておく。

人物紹介

大越新君

常磐炭礦業所長

石炭問題のやかましい折柄、昨年十二月二十日の重役改選で、大常磐炭礦の取締役、磐城炭礦業所の所長となつて時代の脚光を浴びた大越新君は生え抜きの磐城ツ兒だ。しかも片寄平蔵が常磐炭を安政の昔發見したといふ内郷町の彌勒澤に程近い白水に平蔵が石炭採掘に協力を仰いだといふ當時の里正大越甚六氏を曾祖父として生れてゐる。石炭には生れつき縁が深いといふべきだらう。君は大正五年磐城を出て、旅順工科學堂に學んだ。磐城は釜屋の會計諸橋元三郎、縣議關内正一君等と同期であり、別に秀才だつたとか運動競技にすぐれたつたとかいふ話は聞かない。小倉の制服に身を包んで黒い顔をして揚土臺に通らしてせつせと揚土臺に通つた平凡な中學生に過ぎなかつたやうだ。大正八年入山探炭株式會社に入社した折も此男が將來全山を背負つて立つだらうと豫想をつけた者は恐らくはなかつたであらう。併し君は仕事そのものを趣味としてひたす

面倒を見てやり真に山の親父として親しまれてゐるといふ噂も真なる哉とうなづける。入山と磐城の合併については巷間好ましくからぬ風評も耳にする。事實合併後入山系磐城系の融合がうまくゆかず、磐城系がくさつてをり、入山系がのさばつてゐる傾向は確かにある。これは恐らくは君達重役の意志ではあるまいと思ふが結局はその責任を問はれる事になる。君たるもの先づ部下人物の鑑識をあらゆることなく人物を適材適所に配置、いさゝかでも私情に走るやうなことがあつてはならぬ。或人は鶴田前磐城所長に比較してまだ、一修養が足らぬと批評してゐる。此批評は君が充分に味つて然るべきであると思ふ。業務管理の面は労働組合結成の成つた今日特に注意すべきで配給物資に就いて疑念を持たれ不公平と認めるが如き事實は從來少くなかつた。これは是非根絶しなげればならぬ。君は親譲りの天理教を信仰し、老母に好くつかへ二男四女の子福長者である。そこに君の信念も生れ人情の機微もささる所がある筈だと信ずる。

要は信念を持ち人情の機微を知つて部下に對すれば失當の處置がない筈である。炭礦問題はいろ／＼の角度から見て國家の重大問題となつて來てをり合併後の常磐炭礦は複雑な事情を孕んでゐる。怪刀亂魔を斷つが如き手腕といふ古い形容詞がある。新常磐炭礦所長としての君に對して世人は正に怪刀亂魔を斷つが如き處置を期待してゐる。年輩は働き盛り、君の磐城ツ兒としての眞の活躍は正にこれからといふ所である。堅揮一番、乞ふ、吾人の期待を裏切る勿れ。君が磐城ツ兒であるが故に自分は特に雅量を要求し、その大成を切望する。

磐城文化協會記録

- 昭和二十年最終の總會は、十二月三十日の夜搔籠小路の文協事務所樓上に於て開催高木委員の挨拶の後公民講座その他の催物に就いての反省、文協今後の活動、文協の性格等に就いて活潑な意見を交換した。
- 第一回婦人文化講座
第一回婦人文化講座は一月四日から八日迄、次の通り搔籠小路の石城産婆學校で開催した。
- 第一日(四日) 開講の挨拶 山崎忠兵衛 現代文學の展望(明治大正) 山崎千秋
 - 第二日(五日) 憲法學の基礎概念 鈴木光四郎 民主主義解説 高野信
 - 第三日(六日) 終二時間の説明の後委員だけに三十分位座談。
 - 第四日(七日) 現代文學の展望(昭和) 椎名 勇雄 アメリカ文學の焦點 中柴 光泰
 - 第五日(八日) 優生學と人口問題 五十嵐雄之 インフレ防止と戦時利得税 利部 七郎
 - 第六日(九日) 女醫の使命 大和田智恵子 俳句文學 渡邊 久 閉講の挨拶 大嶺 庫
- 受講者は女子四十二名男子六名で嚴寒の折にも拘はらず連夜熱心に聴講した。なほ第二回文化講座は三月下旬に開講する豫定となつてゐる。

内科小兒科
鈴木醫院
平市銀治町
電話四五二番

瀨尾藥局
平市搔籠小路
電話五五三

文藝

和歌

俳句の投稿歓迎

歳旦抄

渡邊何鳴推薦

元朝の鶏の生みたる卵かな
初刷の新聞の名の横文字
松本菊朗
輪飾りや片開きなる大扉
しむじみと時の過ぎゆくお元日
羽根の空少し曇り来たあかし
羽根の音遠のつやみにけり
高木扇要子
楓すりのうごき見てある日向に
焔火はてりせなになつきの針通ぶ
綿引伊佐夫
年酒酌むはらから男ばかりなる
お年酒やはらからみんな句に睡み
野口李秋
風に乗る羽根つきかへす身をまじし
世を忘れ己を忘れし年酒かな
大久保東洲

大根葉

草門好夫

大根葉の干せしを混ふ味うすき
みそ汁がらばほのく朝の句
捨てありし密柑の皮の凍ててあり
我一歳を加へしあした
狂人の如く狂ひ歩き度日なり
姉は芝しき米をかきぎて
すひましの煙草の殻の二つ三つ
夜ふければ頬杖して壁を見る
うまさけくみ友と語りて
砂かみし如く危しく布團に入る

平風景

長眸道人

駅前廣場
ここは無秩序の秩序 無統一の統一
一杯機嫌の興奮が支配する 座のワルツ
乗合自動車
バスは人のインフレ 紙幣束でふくれた人を無理に押し込んで
あたふたと走りまわす
市役所
大根と菜の葉さ度量衡が入口に
頑張つてある 政治を象徴するかの如く
職災者相談所とシティーホルの木
札が仲良く壁に
裁判所
日あつたりのよい門 権利と義務
が出たり入つたり
刑務所
この扉ばかりは世間のそれと
反對に出来てます ほらよく御覧

郵便局

外面は灰色の憂鬱 中は喜怒哀楽
染の手紙が集配棚にアパート生活
白い無表情をしながら

書店

本屋はどこですか? からつば
の書棚

新設飲食店

スルメと蜜柑が通行人を睥睨する
求めよ 然らば與へられん
紺屋町材木町

歌會跡

無が冬空に天なる父を求めて手
を高く差し延べる。ハレルヤ
商業學校
燦然の上に自由主義經濟がこころ
ぞこぼり存在の權利を主張する

松ヶ岡公園

共同便所 松ヶ岡では重大なる
發言權を持つ 横穴 石器時代の
ものによらず この間までは市民
のこよなき時 人の子の枕せ
しところ

樹

寒々とつ立つてある 高瀬勝
男の轟く風景です
銅像
安藤さんは塩釜に疎開中

夏井川

夏井川は静かに流れる 砂利舟
が一つ 牛舎では牛のものを憂き
なき聲
嗚呼ここだけは常に變らず

なんでも安い店

いづみや商店
平市駅前

時計と修理

部品の販賣
誠光堂時計店
平市銀座通り

第一回レコード

期日 一月十三日(日)后一時
場所 マルトモホール階上
曲目 ベートーベン、田園(第六)
シュトラウス、リスト
ショパン、其 他
會員券(但百名限り)
マルトモ書店ニアリ

主催 毒會

マルサ食堂
平市三丁目
電話二七一番

坂本紙店

平市二丁目
電話一八

皆様の店

大黒屋

釜屋商店

平市五丁目
電話九番九九番

新調更生

アラキ婦人洋裁所
平市鎌田町二

おでん

公会堂通

御料理

越乃家
平市二丁目
電話八八九

御料理

山茶莊
平市田町
電話八四七

海草温泉

いそだま
榮養失調ニヨル皮膚病ニ効能多大
一般冷症・神經痛
平市新川町
いそだま本舗
電話七九三

皆様の

磐城地方の新聞

磐城春秋

一ヶ月一圓二十錢(月三回)
あらゆる種類の投書歓迎
購讀及廣告申込所
磐城春秋社
平市田町六八
電話五三二